



さかな およ 魚はどうして泳げるの

さかな およ かた し 魚は泳ぎ方を知っている

人間の赤ちゃんは、生まれてから日がたつにつれて、はいはいや、よちよち歩きをするようになります。はいはいや、よちよち歩きは、ひとりでに時期がくると、できるようになります。もっと大きくなると、大人と同じように、2本足で立って歩いたり、走ったり、とんだりできるようになります。これは、人間の体の作りが、2本足で動き回れるようになってからです。それに、動物の赤ちゃんが教えられなくても、お乳を吸うことを知っているように、人間は、2本足で歩く方法を知っているのです。

魚の体も、泳ぐのに便利なようにできています。そして、魚は生まれたときから、どうすれば泳げるかを知っているのです。

さかな からだ およ べんり 魚の体は泳ぐのに便利

魚は、前に進むとき水がじゃましくい、まるっこい流線形や、厚みのない平べったい体の形をしています。スピードを出して泳ぎ回るカツオ、ブリ、イワシなどの体は流線形です。これらより、ちょっとスピードがおそいのは、タイ、カワハギなど、縦に平べったい体の魚、あまり動き回らないエイ、アンコウ、ハゼ、カレイなどは、横に平べったい体をしています。

魚は、水中を自由に泳ぎ回れるように、左右にひとつずつある胸びれ、腹びれ、そのほかに、背びれ、しりびれ、おびれをもっています。スピードを出すときは、しっぽから、おびれの部分を使い、やわらかい体をくねらせて、ぐんぐん前に進みます。ほかのひれは、体のつり合いをとったり、方向を変えるときに使います。（監修・安部 義孝）

